

レフカダ島

レフカダ島には、次のようなすばらしい特色があります

- 類いなく美しい砂浜。刻々と表情を変えるターコイズ・ブルーの海。目を見張るような夕 映え。
- 驚くほど多彩な景観、手つかずの自然がそのまま残っています。
- レフカダ島は、長さ50メートルの浮橋によって陸地とつながっているため、島でありながら、不便な点がまったくありません。
- イオニア諸島に属する他の島々や、ギリシャ本土（イピルス地方）に点在する重要な考古学遺跡、名跡へのアクセスのよさ。
- きわだった文化的伝統。文学的催しやアート・フェスティバル
- ユーモアのセンスに富み、集まって楽しむことが好きな、親切な住民。
- 手ごろな値段で味わえる、素晴らしいワインと美味しい食事。

多くの方が、一度きりではなく、魔法のような魅力のとりこになったかのように、毎年レフカダ島を再訪していただきます。

日本の皆様は、レフカダ島が作家、ラフカディオ・ハーン／小泉八雲の生まれ故郷であることをご存知だと思います。レフカダの街にはハーンの名を冠した通りがあり、生家も残っています。ハーンはごく幼いころ、両親とともにレフカダ島を離れて英国にわたり、ふたたびこの島に帰ることなく、日本で生涯を終えました。しかし、レフカダ島の夕日、ときに不思議な色合いをみせる海をごらんになれば、ハーン作品のなかに、生まれ故郷のこの島の面影が、遠くこだましているのを感じていただけるのではないのでしょうか。

この素晴らしい島に、ぜひおいでください。島の、言葉に尽しがたい美しさを堪能してください。レフカダ島は、皆様のご期待を裏切りません。

* レフカダ島のビーチは、インターネットによる投票で、地中海でもっとも美しい浜辺に選ばれました。



レフカダ島について

レフカダ島はイオニア諸島で四番目に大きな島で、コルフ島、ケフェロニア島の間にあります。島は、紀元前七世紀にコリント人が開削した、細いリボンのような内海によって、本土のアカルナニア地方から切り離されていますが、水路の両端を結ぶ橋によって、本土からごく容易に島に渡ることができます。

レフカダという名は、古代ギリシャ時代「レフカタス」と呼ばれた、島南端の岬に由来しています。「レフカタス」は「白い岩」また「白い岩礁」を意味します（ギリシャ語で「レフコス」「ロイコス」は「白」）。

レフカダ島は、島を抱く湾にある二十四の小さな島々とともに、地方管区レフカダに属しています。この精彩に富んだ、小さな多島海の独特な景観も、訪れる人の探索心を刺激することでしょう。

レフカダの歴史

紀元前3000年～1000年、青銅器時代の墓跡から発掘物が発見される。紀元前7世紀、コリント人の植民地となる。サラミスの海戦、プラテーエスの戦闘、ペロポネソス戦争（スパルタの同盟軍）に参戦。



レフカダ島とアカルナニアを結ぶ浮き橋

衛星写真、レフカダ島と周辺の島々、アカルナニア地方の一部



レフカダの歴史

紀元前338年、マケドニア王フィリップ1世に征服される。
 紀元前2世紀、ローマに対する島民蜂起。果敢な防衛戦の末、降伏。
 1204年、レフカダ島はイピロスの専制体制下に統合される。
 1294年、専制君主ニケフォロス一世、娘マリアをジョバンニ・オルシーニ伯爵と結婚させ、レフカダ島を嫁資として娘に贈る。今も島の入り口に偉容を誇る要塞の主要部分は、このオルシーニ伯爵が建設したもので、当時の島の首都サンタ・マウラも、この場所におかれていました。
 1331年～1362年、アンジュ公爵家の支配下にはいる。
 1357年、グラティアノス・ゾルゼスに対し、レフカダ島民が反乱を起こす。
 1362年～1479年、イタリア貴族トッツィ家の領有となる。
 1479年、オスマン帝国がレフカダ島を征服する。
 1502年～1503年、一時ベネチア共和国の支配下にはいる。
 1503年～1684年、ふたたびオスマン帝国に征服される。
 1684年～1797年、今一度、ベネチア共和国支配となる。首都と要塞が、現在の首都があるアマクシヒに移される。
 1797年、フランス共和主義者に征服される。
 1798年～1807年、ロシアトルコの支配下にはいる。1802年以降、ロシアトルコの「保護下」に初めて成立した、半自治権を持つギリシャの小国家、イオニア諸島共和国の一部となる。
 1807年～1810年、ナポレオン1世の帝国属領となる。
 1810年、イオニア諸島共和国を併合したイギリスの支配下にはいる。
 1819年、島民の反乱。1821年のトルコ人土地所有者に対する諸島島民の反乱に参戦。
 1864年、イオニア諸島に属する他の島とともに、ギリシャへの帰属を決める。

レフカダ島出土のコイン、紀元前400～330年



左から右へ、

- ・トッツィ伯爵家紋章
- ・オルシーニ伯爵家紋章
- ・ヴァルター公爵家紋章

サンタ・マウラ要塞の教会鐘楼



要塞から見たレフカダ、「イオニア諸島の風景」
 エドワード・リア画、ロンドン 1863年
 レフカダ私立図書館所蔵



サンタ・マウラ要塞



レフカダの文化

「波の音と、マツをわたる風のそよぎが聴こえる」レフカダ島は、幾人かのもっとも繊細な精神に恵まれた詩人、著述家、また、ギリシャのみならず、国際的に著名な芸術家、学者が生まれ育った島です。

イオアニス・ザンペリオス（1787年～1756年）

ザンペリオスは、イタリアとパリで学業（法律、文献学、哲学）を終えたのちレフカダ島に帰り、イオニア諸島共和国の検事に選出されました。トルコからのギリシャ解放を目指す秘密結社「反トルコ秘密結社」にはいり、レフカダ島出身のもっとも重要なメンバーとして、生涯をこの目的に捧げました。イオアニス・ザンペリオスは愛国的な十二の悲劇を書いています。

スピリドン・ザンペリオス（1813年～1881年）

イオアニス・ザンペリオスの息子、歴史家。彼は、そのもっとも重要な著作『ビザンチン研究』（1857年）で、ビザンチウムの小国家群が統一的であったことを実証し、小説家としても名を成しました。

アリストテリス・バラオリティス（1824年～1879年）

バラオリティスの詩は、故郷と自由への愛、1821年の反乱で戦った独立戦士に対する感動にあふれています。バラオリティスはレフカダ島代表として、長年イオニア諸島共和国議会の議員をつとめ、急進派に属して、ギリシャへの統合を勝ち取るべく戦い続けました。彼の希望が現実となったのちは、国民代表として、ギリシャ国会の議員に就任しました。

ラフカディオ・ハーン／小泉八雲（1850年～1904年）

西欧では日本と日本文化の紹介者として知られているラフカディオ・ハーン／小泉八雲は、日本でもっとも広く読まれている国民的作家のひとりです。ハーンは1890年、アメリカの雑誌の通信員として日本を訪れ、旧制中学校、高等学校、東京帝国大学、早稲田大学で英語と英文学



ラフカディオ・ハーン／小泉八雲



アリストテリス・バラオリティス

の講師をつとめながら、日本文化関連書、随筆、小説を発表しました。松江で士族の娘、小泉節子と結婚し、日本国籍をとり小泉八雲と名のります。1904年、東京の自宅で亡くなりますが、翌1905年、生前の功績により従四位を追贈されました。ハーンが住んだ松江、熊本、東京にはいずれも記念館が建てられ、没後百年にあたる2004年には各地でさまざまな催しが開催されました。ハーンと節子夫人は、夏目漱石、永井荷風、泉鏡花など日本を代表する文学者とともに、東京の雑司ヶ谷墓地に眠っています。またハーンの孫、小泉時氏は著述家として、時氏のご子息、ハーンの曾孫、小泉凡氏は民俗学者、著述家、島根大学助教授として活躍しています。

アングロス・シケリアノス (1884年～1952年)

詩人シケリアノスはデルフィの祝典劇の創始者でもあります。この力強い表現力に富んだ詩人、神秘家、幻視者は、詩作をもって古代ギリシャとキリスト教の価値観の融合をはかり、すべての人間の心に訴えることに成功しました。

ニコス・スボロノス (1911年～1989年)

国際的に著名なビザンチン学者、ギリシャ現代史の分野でも重要な業績を残しました。

テオドロス・スタモス (1922年～1997年)

国際的な名声を得た画家、抽象的表現派の先駆者です。

ナノス・ヴァラオリティス

シュールリアリズムの詩人として重要な作品を書き、散文家、劇作家としても活躍しています。

アグネス・バルツァ

世界的に有名なメゾ・ソプラノ、オペラ界のスターです。



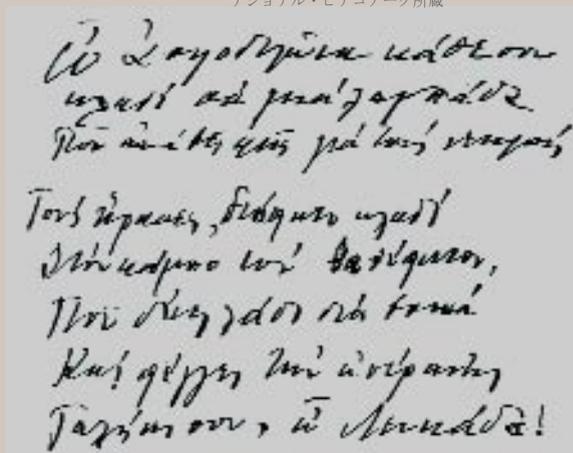
テオドロス・スタモス、
『スタモス—その生涯と業績』F・ビオムビス著、ファゴット出版、
2003年より



「空間と太陽の箱」、テオドロス・スタモス画、
1963年～1964年制作、
ナショナル・ピナコテーク所蔵



アングロス・シケリアノス、
1909年



ヴィヴェット・ツァランバーカラマニ文書館所蔵

レフカダ島は、ギリシャで初めて文学・アート・フェスティバル（1955年～）と国際フォルクローレ・フェスティバル（1962年～）を組織し、以後毎年開催しています。これらの催しでは、イオニア諸島の伝統文化を取り上げ、地元住民に高く評価されています。またレフカダ島にいらっしゃるお客様にも支持されて、この種の催しはギリシャ各地に広まっています。演劇、音楽、展覧会、学会と詩の朗読の夕べは、毎年、夏の夜のハイライトになっており、レフカダ島の文化的伝統を、より優れたものとすることに貢献しています。

八月、街の路上は世界各国から招聘されたダンサーたちであふれ、市の中央広場は多彩な歌と踊りで活気づきます。このフェスティバルには、記憶に残る多くのシーンがありました。たとえば、1964年のマリア・カラスの特別参加。ギリシャの観客を前にした、カラスの最後の舞台でした。

レフカダ島には、コルフ島についてギリシャでもっとも古いオーケストラがあります（1850年創設）。このオーケストラの活動は、島民の音楽的教養の向上に大きく貢献しました。ギリシャの歴史的出来事も、このオーケストラを抜きに語ることはできません。オーケストラは1864年、イオニア諸島ギリシャ統合の時に演奏しており、1896年のアテネ・オリンピック、1906年のプレ・オリンピックなどにも出演しています。

レフカダ島にはオーケストラ以外にも、伝統舞踊の団体、合唱団とマンドリン・オーケストラがあり、ギリシャのみならず国際的に高い評価を受けています。

レフカダ・フィルハーモニー



国際フォルクローレ・フェスティバル参加グループ



レフカダの伝統芸能、国際フォルクローレ・フェスティバル



レフカダの街

レフカダの街

レフカダ島の首都は、十四世紀初頭にクルモス地方からサンタ・マウラ要塞へ、さらに1684年、ベネチア人フランセスコ・モロシーニによって、現在の場所、アマクシヒ平地に移されました。

首都レフカダ市は、キラキラと光を反射する海と、運河とラグーナ（潟）に囲まれた半島の上にあります。ラグーナの水面には、建物の色とりどりのファサードと、深い緑の山々と空が映っています。市の北側の景観は、細く弧を描くギラの砂浜によって、まったく異なった趣きです。まばらな木立と風車の見える砂浜の前に、イオニア海が果てしなく広がっています。

都市建築という点で、レフカダ市も中世ヨーロッパの規準に従っています。ベネチア人によって完成された市街は、住民が言うように、「魚の骨」の形を思い出させ、歴史的建造物が立ち並び、市の中核をなしています。

旧市街の建物の構造は、ギリシャだけではなく、ヨーロッパ全土に類のないもので、傑出した耐震構造をもつ建築の代表例とされています。伝統的な様式の色とりどりの建物と教会（バジリカ）の間をぬうように、狭い路地が敷設され、いきいきとした色彩と、小庭やバルコニーに植えられた人目をひくさまざまな植物の香とあいまって、独特な雰囲気をかもし出しています。

レフカダ様式の木組み家屋の典型例





1

2

3

4

5

6

1. 水路と船
- 2、3. バントクラトア教会と教会
ファサードの細部
- 4、5、6. レフカダ市街

街の見所

レフカダ市には、美しい教会や史跡、さまざまな文化施設があります。

教会（バジリカ）、市内にはベネチアの様式（バジリカ）の影響を受けた個性的な教会が多数あり、各教会の内部は、イオニア・スタイル（後期クレタ様式）のイコンや、さまざまなイコンが埋め込まれた壮麗な木彫、金箔で覆われた壁で飾られています。

レフカダ島考古博物館には、ニドリの墓跡（初期～中期青銅器時代）、レフカダ島古代都市の墓地や他の地域からの発掘物などが展示されています。

ラグーン（瀉）は、イオニア諸島でもっとも重要な湿性ビオトープに数えられ、湿地保護に関する国際協定ラムサール条約によって、世界的に貴重な湿原と認められ、保護されています。数百年にわたって魚の産卵場所であるこの湿地は、カモメ、アオサギ、白鳥、野ガモ、野生のガチョウやコブハクチョウの安住の地です。

板蓄音機（フォノグラフィー）博物館は、島に住む熱心なコレクターが建設した小さな私立博物館で、板蓄音機（フォノグラフィー）、レコード、珍しい生活用品や装飾品を展示しています。

市立図書館がある古典派様式の建造物は、かつてズリヌ家の住宅でした。市立図書館には書籍はじめ多数の各種印刷物ほか、数多くの後期ビザンツ様式のイコンや、イオニア諸島出身のイコン画家ドクサラス、パツァラス、ルソスの作品など、イオニア諸島の芸術作品が所蔵されています。



左上から時計まわりに
 ・市立図書館
 ・アイ・ニコラス（聖ニコラス）教会
 ・パナギア・トン・イソディオンの鐘楼
 ・考古学博物館館内

サンタ・マウラ要塞、砂州、ギラの浜辺、ラグーンとレフカダ市



サンタ・マウラ要塞は、14世紀から1684年まで、防衛拠点として海賊や外敵から首都を護り続けました。

ギラの砂浜には4基の**風車**が残っています（かつては12基ありました）。風車のほとんどは、オルロフ、メツイコフ、モスコヴァスなどロシア風の名前をもち、二十世紀の始めまで、大量の小麦を精製していました。またこの小麦の多くは、ロシアから輸送されてきたものでした。

カラモリオス図書館は、レフカダ島在住者の著作や、レフカダ島をテーマにした著作を集めた特殊図書館です。この図書館は、ギネスブックに登録されています。

テオドラス・スタモス美術館は、一年を通じ、さまざまな展覧会を開催しています。

ニコス・スボロノス図書館はニコス・スボロノスが島に寄贈したもので、国際的に著名なこのレフカダ島出身者が集めた書籍、手筆原稿、個人的な記念品などを所蔵しています。

アイ・ニコラス（聖ニコラス）、アカルナニアの岸辺近くの優美な形の小さな島、アイ・ニコラス（聖ニコラス）は、詩人アンゲロス・シケリアノスがもっとも愛した島のひとつです。

オリーブの林、レフカダ市の北には、1684年ベネチア人によって開墾された、歴史的なオリーブの林が広がっています。

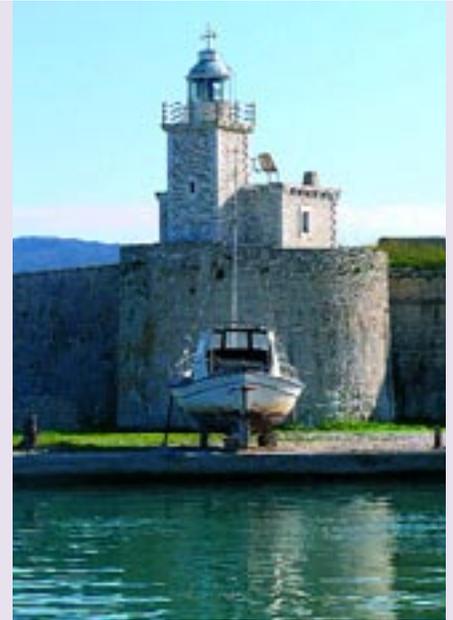
1

2

3

4

- 1、4. 埠頭の東側
2. サンタ・マウラ要塞
3. アイ・ニコラス（聖ニコラス）島



ファネロメニ僧院、オリーブ林とレフカダの街

パナギア・トン・ブラヘルノン教会、聖母マリアに捧げられたパナギア・トン・ブラヘルノン教会は、首都レフカダの北側の、葉の裏表に光を受けて、銀色と深緑にキラキラと輝くオリーブ林の中に建っています。1821年、謝肉祭の日曜日、イオアニス・ザンペリオスの主導によって、武装戦士とルメリの貴族たちがこの教会に集まり、トルコに対して武装蜂起し、革命を宣言することを誓いあいました（この時の福音にかけた宣誓書は、現在にも伝えられています）。

クゾンベイ、オリーブの林の中、プラタナスとポプラの巨木の下に、二軒の伝統的なカフェニオン（軽食もとれるカフェ）があります。とろけるように甘い「イボプリヒオ」（乳香をつかった伝統的なアイスクリーム）や、スマダ（スイート・アーモンド、砂糖とビター・アーモンドのエッセンスから作られた、酸味のないカルピスのようなソフト・ドリンク）、美味しいフライドポテトが味わえます。

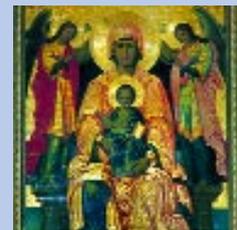
ファネロメニ僧院、レフカダ市を見おろして悠然とたたずむ丘の上、古代にはアルテミスの神殿があった場所に、レフカダ島の守護聖人を祭るパナギア・ファネロメニ僧院が建っています。僧院には、聖山アトスの僧ベンヤミン・コントラキスが1876年に製作した、奇跡をおこなう聖母マリアのイコン「ファネロメニ（啓示）」が保存されています。



クゾンベイのカフェニオン



パナギア・トン・ブラヘルノン教会



聖母マリアのイコン「ファネロメニ（啓示）」

マリーナ

レフカダ市の東側に位置するギリシャでもっともモダンなマリーナは、レフカダ島の一番新しい財産です。マリーナには500艘のヨットを繋留することができ、コントロール・タワー、多目的ビル、ナウティック・クラブ、オフィスとショッピング施設、小ホテル、ヨットの修理・整備施設、広大な駐車場、300艘のヨットが収容可能な船舶越冬施設、休息所と緑地、全長1700メートルの埠頭と、940メートルにおよぶ浮式防波堤を完備しています。



レフカダ島東部

島の東側は穏やかで快適な気候に恵まれ、観光施設が完備しています。

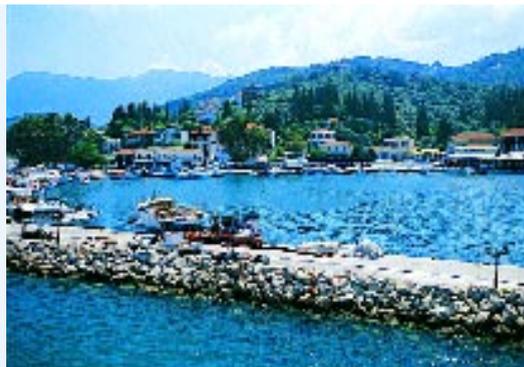
東岸のビーチは遠浅なうね波も静かで、海水浴に最適です。風のあたらない入り江では、ヨットの帆走やモーターボートを楽しむことができ、浜辺に並ぶ洗練されたタベルナが、お客さまに食の歓びを提供しています。また、様々なマリンスポーツにトライすることもできます。

カリヨテス、リヤ、ニキヤナ、ペリヤリ、ニドリ、ヴリホ、イエニ、デシミ、ポロス、シヴォタ、ヴァシリキといった村々は、毎年たくさんのお客さまをお迎えしています。

ニドリはとくに、レフカダ島最高の休暇村として有名です。モダンな宿泊施設、レストラン、ナイトクラブを完備し、各種ウォーター・スポーツが楽しめるこの村は、毎年夏、休暇をすごすお客さまであふれるようになります。またニドリは、入り江を見わたす目の覚めるような眺望に恵まれています。ニドリの前に広がる海上には、詩人ヴァラオリティスの一族私有のマドウリ島、海運王オナシス家が私有するスコルピオス島とスパルティ島、スコルピディ島、ホメロスの詩編にある「墓地の島」メガニシ島など、多くの小島が点在しています。アヤ・キリヤキ（聖キリヤキ）半島には、ホメロスの詩編にあるイタカは、現在のイタカ島ではなく、レフカダ島こそがイタカなのだ、と説いたドイツ人ホメロス研究者W・デルプフェールドが永久の眠りについていました。

ヴァシリキ村には整った観光施設がある一方、絵のような自然が残っています。この村のビーチは、ウィンド・サーフィンのメッカとして世界的に知られています。

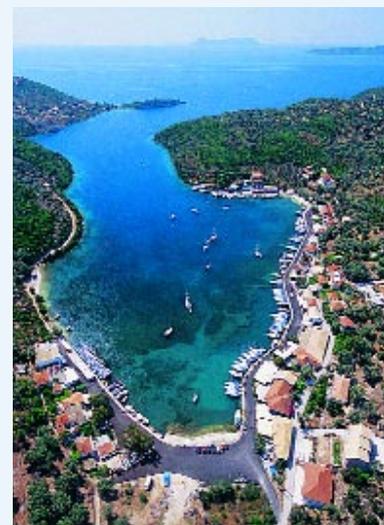
リヤの波止場



アヨフィリのビーチ



カリヨテスのアリキス・アレクサンドロウ塩田



シヴォタ

1. ニキヤナ
2. ヴリホ、デシミの入り江
3. ヴァシリキの港
4. ヴァシリキの入り江

1

2

3

4



1

2

3

4

5

6

1. カストス島の洞窟「あざらしの穴（フोटリバ）」
2. カラモス
3. マドウリ島とアリストテリス・バラオリティスの屋敷
4. アリストテリス・オナシス氏
5. ポロスの浜辺ミクロス・ヤロス
6. アリストテリス・オナシス氏私有のスコルピオス島



ニドリ、マドゥリ島、スコルピオス島、遠くメガニシ島をのぞみ、右手はヴリホ、イエニの入り江とアヤ・キリヤキ（聖キリヤキ）半島







レフカダ島西部

1. アイ・ヤニス
(聖ヤニス)の浜辺
2. ペフクリア
3. レフカタスの岬
4. スタプロウの別荘地、
アイ・ヤニス(聖ヤニス)近郊



島西岸の景観の特色は、人の手の加わっていない、有史以前に形成された雄大な岩礁と、海面からまっすぐに切り立つ岸壁、果てしなく広がる海です。西岸はまた、豊かな緑に恵まれています。崖から海に届くほどに生い茂ったトウヒ、イトスギ、オリーブの木、イナゴマメ、さまざまな種類の地中海独特の灌木。かつてこの地の主要産業だったワイン作りの名残り、郷愁を誘う葡萄畑も残っています。

ヨーロッパでもっとも美しいといわれるビーチ、カストロ、アイ・ヤニス(聖ヤニス)、ペフクリア、ミロス、カティシマ、ヤロス、エングレミニ、ポルト・カツィキは、すべてこの西岸にあります。押し寄せるエメラルド・グリーンの波が長い時間をかけて作り上げた砂浜は、雄大な、切り立つ岸壁によって分断され、護られています。心を奪われるような砂浜の前には、はてしない海が広がっています。

西岸の突端には、方言で「カノ・ティス・キラス」また「ティス・ニラス」とも呼ばれる、レフカタスの岬があります。古代、レフカタスの岬にはアポロに奉獻された神殿が建っており、神話によれば、オディッセウスとレフコスとの友情が結ばれたのも、この岬です。草木のない、裸の険しい巔礁の上では、太古、生け贄の儀式が執り行われたといわれ、レフカタスが恋の悩みゆえにここから身を投げたともいわれています。伝説はまた、女流詩人サッフオーが、美貌のファオンへのかなわぬ恋に絶望して、この岬から海へ身を投げたとも伝えています。



1

2

1. エングレミニ
2. 対岸から見たポルト・カツィキ







| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 2 | 1. カティシマ 2. 伝統的な村、アイオス・ニキタス村 3. ヤロスのビーチ 4. アイオス・ニキタス村、ミロスのビーチ 5. アイオス・ニキタス村 |
| 3 | 4 | 5 | |



内陸部

レフカダ島の起伏に富んだ内陸部には、ひなびた景色がそのまま残っています。スパノホリ、ラザラタ、カヴァロス、アスプロゲラカタ、ピナコホリといった美しい小さな村があり、これらは地方自治体スファキオテスに属しています。この自治体にはほかに、イオニア海の雄大な眺望を誇るドリモナス村とエクサンティア村が属しています。高地にはレフカダ島山岳地方のもっとも大きな村カリヤ、レンズ豆の生産で有名な山村エングルヴィ、プラタナスの繁る水の豊かなヴァフケリ村、アレクサンドロス村、プラティストマ村、シブロス村が点在しています。

こうした村の女性たちの多くは、今でもレフカダの伝統的な衣装を身につけています。「満ちあふれる柔らかな光に沈む台地」と歌われる、この地方の景観はけっして単調ではありません。古い教会、廃寺となった僧院、打ち捨てられた石積みの壁、地滑りを防ぎ耕作地を増やすため、島民によって急な斜面に作られた、古代劇場の客席によく似た、テラスのような構造の畑があちらこちらに見られます。

内陸にはまた、たくさんの風車や水車が残っています。絵のようなメリサ峡谷をはじめとする山峡や、スカリ村のアギオス・ゲオルギオス僧院のような、美しい教会や僧院も存在します。代表的な教会、僧院として、イシハスティリオン・トン・アギオン・パテロン僧院、有名なアギオス・イオアニス・スト・リヴァディ（荒野の聖イオアニス）僧院、歴史上重要なプラティストマ村の赤壁の教会に付属する、アスマトス・アルハンゲロス・ミハイル僧院（僧院の名の意味は、肉体をもたない大天使ミハエル）があげられます。

プラティストマ村の赤い教会



アギリ・パテレス僧院

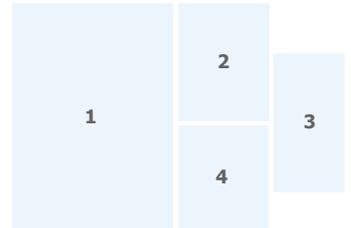
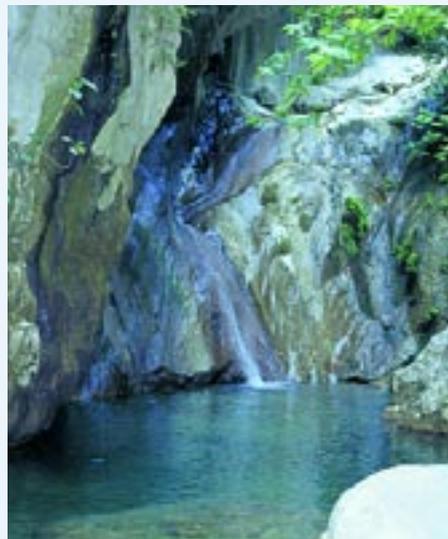


カリヤ村のアギオス・イオアニス・スト・リヴァディ
（荒野の聖イオアニス）僧院



アギオス・ドナトスのアーチ





1. カリヤ村
2. シプロス村、ケラシアの泉
- 3、4. ディモサリの滝

- | | | | |
|--------------------------------|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 |
| 1. スファキオテスの葡萄畑 | | | |
| 2. エングレミニニ高地の脱穀所 | | | |
| 3. ドリモナス | | | |
| 4. ヴァフケリ村のアスマトス・アルハンゲロス・ミハイル僧院 | 4 | | 5 |
| 5. カラミチ村 | | | |





1

2

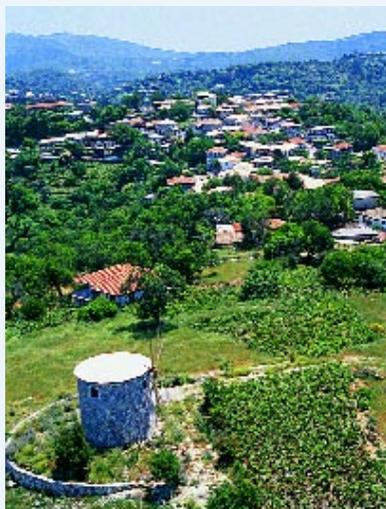
3

4

5

6

1. アラストロ村、アギオス・イオアニス教会内部
2. ネオコリ村、ギリシャ民俗楽器博物館、ツァツラ・コレクション
3. 地方自治体スファキオテスに属するカヴァロス村の民俗博物館
4. カヴァロス村
5. 伝統的な結婚衣装を着た新婚夫婦
6. 伝統的なレフカダの家



パラシュート、カティシマにて

スポーツ

レフカダ島には、ウィンド・サーフィンに最適な場所として、世界的に有名なビーチが二ヶ所あります（ヴァシリキとアイ・ヤニス）。カイト・サーフィンに理想的な風も吹き、海の深さはダイビングに最適です。内陸部ではウォーキングやマウンテン・バイク、渓谷ではロック・クライミングが楽しめます。レフカダ島は各種スポーツを楽しみ、学ぶことができる、理想的な旅行地です。豊かな自然は、みなさまの滞在をより快適なものにすることでしよう。

ここ数年来、島東岸で高速モーターボートの世界選手権、フォーミュラー・スリーが開催されており、国際的に注目を集めています。

4月から9月にかけて、レフカダ島には西風と北西風、まれに南風が吹きます。ヨットとゴムボートは、海からのみアクセスできる、美しい海岸や砂浜を探索するために理想的です。海の色、変化に富んだ景色、帆走路に点在する多くの小島、舟を漕ぎ出すのに最適の静かな入り江は、かつてのオディッセウスのように海を駆け巡る旅を、忘れがたいものにしてくれることでしよう。

マウンテン・バイク



ハングライダー、レフカダ・スカイ・スポーツ・クラブ



1

2

3

4

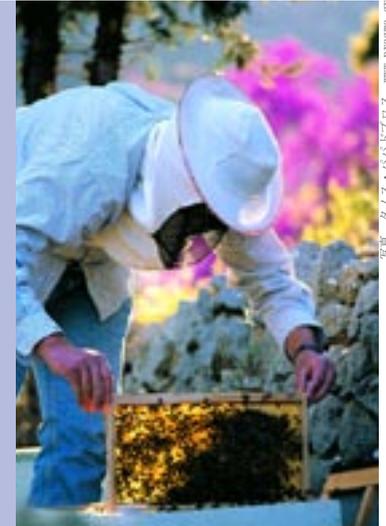
5

1. カイト・サーフィン、アイ・ヤニスにて
2. ヨット・レース
3. ウィンド・サーフィン、アイ・ヤニスにて
- 4、5. ヨット帆走とカヌーイング



特産品

アサニ地方のタイムの蜂蜜、パステリ（胡麻と蜂蜜を固めたお菓子）、マンドラタ（ヌガーの一種）、スマダ（ビター・アーモンドのエッセンスを使ったソフト・ドリンク）、オリーブの古樹から生産されるオイル、エングルヴィ村のレンズ豆、サラミ、ソーセージ、ラグーナの魚卵産卵所で作られる食用ワックスで包んだ魚卵加工品、赤ワイン、白ワインはレフカダの土地が育む特産品です。ぜひ一度お試しください。とくに、珍しい品種の葡萄「ヴェルザミ」から生産されるワインをお勧めいたします。この品種はスファキオテス地方の海拔200メートルから700メートルの高台、カリヤ、アポロニアとエロメノスで栽培され、ギリシャ最高の葡萄品種と評価されています。また、カリヤ村で製作される刺繍は、ギリシャで他に類をみない、高度な技術を駆使したものとして有名です。



写真：タノス・バスタプロス、www.papagos.gr



1. ラグーンの魚卵産卵所
2. 養蜂家
3. ヴェルザミ種の葡萄
4. 港に戻る釣り師

1

2

3

4



インフォメーション

アクセス

陸路

レフカダ島は船を使わず、本土（アカルナニア地方）と島を結ぶ橋を使って車でアクセスできる、唯一の島です。首都レフカダはアテネから378Kmの距離に位置しており、アテネーレフカダ間には、一日に五本、遠距離バスKTELが走っています（片道5時間）。一週間に二本、テッサロニキーレフカダ間（420Km）のバス便もあります（片道7時間）。

またプレバザとアクティオを結ぶ海底トンネルを通して、西ヨーロッパとヨーロッパ中部へのギリシャ最大の玄関口、イグメニツァ港（レフカダ島からの距離、100Km）はじめ、ギリシャ西北部へも楽にアクセスできます。

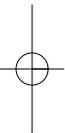
空路

首都レフカダの近郊、市街から18Km離れたアクティオの国際空港から、アテネへの便が毎日飛んでいます。テッサロニキ行き、クレタ行きの便は、それぞれ一週間に二便あります。夏期には、アクティオとヨーロッパ各都市を結ぶ直行便があります。

周辺の島へのアクセス

ニドリとヴァシリキから、ケファロニア島（別名フィスカルド島）、イタカ島（別名フリケス島）とメガニシ島への船が毎日出ています。周辺の島やビーチを周航する観光船もあり、コルフ島、ザキントス島、ケファロニア島へは飛行機の便もあります。









| | | | |
|----------------|-----------------------------|-----------------|---|
| ギリシャ国番号、 | 0030 | 賃貸マンション・オーナー連盟、 | 21266-7, 21608 |
| レフカダ地域番号、 | 26450 | 郵便局 (ELTA)、 | 24225 |
| 地域行政管理局、 | 2645 3 60700 | 消防署、 | 22555 |
| 地域行政管理局、振興課総務 | 2645021613-2645021713 | 考古学博物館、 | 21635 |
| | 2645 3 62129 - 2645 0 21715 | 電話局 (OTE)、 | 21299 |
| FAX: | 2645 0 21613 - 2645 0 21715 | ヴァシリキ保健所、 | 31065 |
| レフカダ市役所、 | 2645 3 60500 | | |
| アポロニア市役所、 | 2645 3 61000 | ウェブサイト | www.lefkada.gr www.lefkashotels.gr www.holidaysinlefkada.eu www.lefkas-familyhotels.gr www.medmarinas.com |
| エロメノス市役所、 | 2645 3 61100 | | |
| スファキオテス市役所、 | 2645 3 61400 | メールアドレス、 | tourismos@lefkada.gr info@lefkashotels.gr oseedlefkas@otenet.gr lefkas@medmarinas.com |
| カリヤ市役所、 | 2645 3 61200 | | |
| メガニシ市役所、 | 2645 3 61310 | | |
| カラモス市役所、 | (26460) 91281 | | |
| カストス市役所、 | (26460) 91484 | | |
| レフカダ警察署、 | 29375 | | |
| レフカダ港湾局、 | 22176 | | |
| タクシー、 | 21200, 24600 | | |
| タクシー (ニドリ)、 | 92000 | | |
| オリンピック航空、レフカダ、 | 22881 | | |
| アテネ、 | (210) 9666666 | | |
| 遠距離バス (KTEL)、 | | | |
| レフカダ、 | 22364 | | |
| アテネ、 | (210) 5150108 | | |
| テッサロニキ、 | (2310) 595439 | | |
| 病院、 | 25371, 25376 | | |
| ホテル連盟、 | 24539 | | |
| レンタル・ルーム、 | | | |

レフカダ地域行政管理局、観光事業振興委員会発行
制作・編集、出版社ファゴット代表、N・テルモス
電話、210 3645147 www.fagottobooks.gr /
info@fagottobooks.gr
テキスト、ナタリア・カティフォリ
日本語訳、鶴見 真理
装丁、ニコス・ボグダノス
収録写真、レフカダ地域行政管理局
エレオノラ・フィオル、サキス・ゾガス、
イマジネット/Ⅹ・ドリミツァス、A・アタニティ
ス、ハル・ラザリス、ファゴット
貴重な写真を提供して下さったタノス・パパドプ
ロス氏に深謝いたします。



レフカダ

www.lefkada.gr



レフカダーギリシャ



MINISTRY OF TOURISM
GREEK NATIONAL TOURISM ORGANISATION
www.visitgreece.gr

うららかな静けさ

www.lefkada.gr